

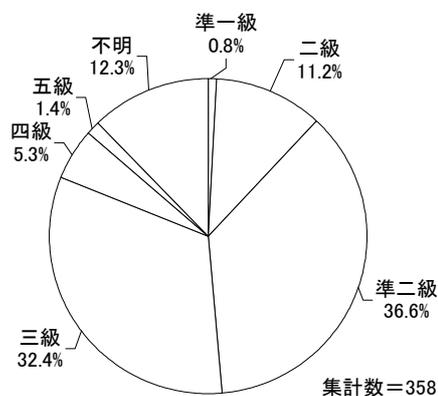
センター試験リスニング試行テストは、こう行われた！
PART.3 受験者アンケート調査結果(集計)

個別音源機器の操作は簡単、課題は「音もれ」

旺文社 教育情報センター 16年11月

調査の概要

- 調査対象 9月26日のセンター試験リスニング試行テストを受験した全国の高校2年生
アンケート配付640件／有効回答数358件(回答率55.9%)
- 調査時期 平成16年9～10月
- 調査方法
 1. モニター参加者に質問紙を郵送
 2. 当日試験会場(早大, 東京工業大)にて配付
 3. モニター協力校にて配付
- 回答者の英検取得級内訳



英検級	人数
準一級	3
二級	40
準二級	131
三級	116
四級	19
五級	5
不明	44
計	358

調査結果から推定した出題内容

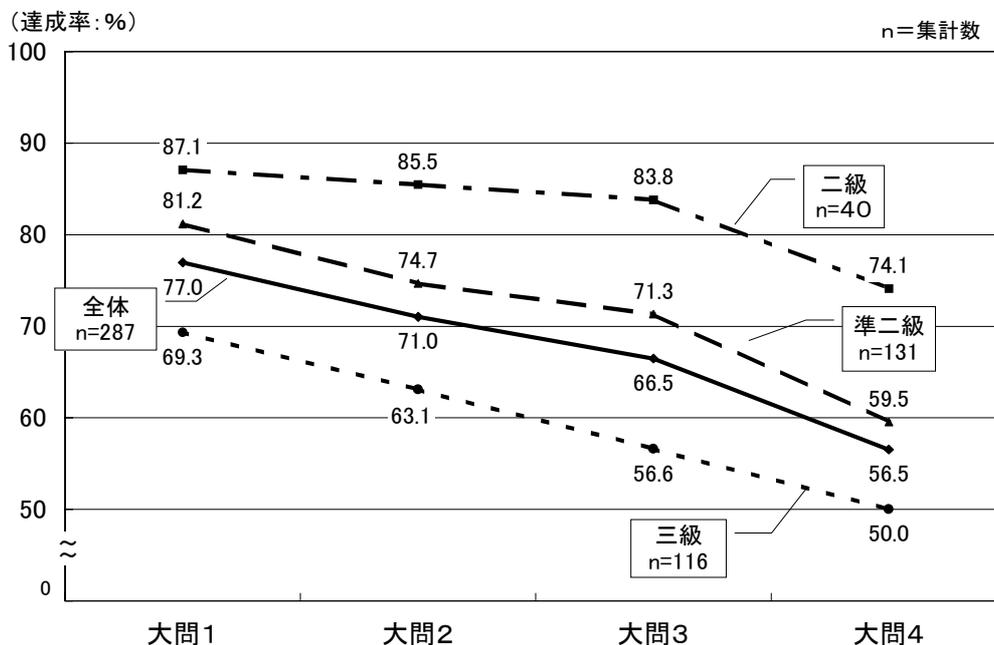
- 受験者の声を集約すると、リスニング問題は次のような出題であったらしい。

設問	形式	設問数	内容	難易
第1問	対話文	6問	数字や絵を選択するもの	易しい
第2問	対話文	7問	読まれた英文に続く応答を選択	普通
第3問	A 対話文	3問	日常生活に密着した応答を聞いて正解を選択	普通
	B 長めの対話文	3問	週の予定についてイラストを選択	普通
第4問	A 短い文章	3問	短いアナウンスをもとに正解を選択	やや難しい
	B 長めの講義	3問	講義をもとに3問の設問に解答	難しい

- * リスニング(聞き取る英語)はすべて2回読み上げられ、読み上げの間には考えたり解答をマークするための時間(ポーズ)が与えられていた。
- * 質問文と選択肢の英語はすべて問題冊子に印刷されていた。
- * 解答はマークセンス方式だった。
- * 大問ごとに日本語による問題概要や注意事項のナレーションが流れた。
- * すべての問題が終了した後に、マークシートを確認する時間が約3分間取られていた。

出題難易を大問ごとに受験者の予想達成率から分析すると、リスニングは第1問から第4問にかけて、易しい問題から難しい問題へと段階的に出題されていたものと思われる。

<英検取得級別、予想達成率平均値>



※受験生の自己評価による予想達成率を英検取得級ごとに集約した平均値を利用

英検取得級と予想達成率の平均値に強い相関が見受けられることから、今回の試行テストに参加した高校2年生は、比較的直前に英検を取得または更新していると考えられ、大学受験のみならず、資格や英語の勉強に対する意識の高さがうかがえた。

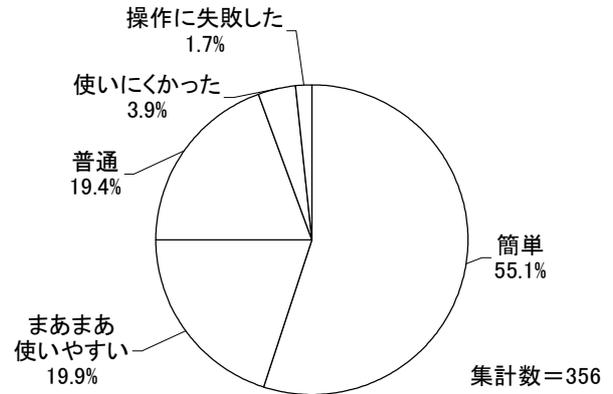
最も平均値の低い第4問の中でも、Bは文章量が多く「テーマが難しめで、しかも読むスピードが速く、難易度の高い問題だった(公立高・準2級)」「質問や選択肢も印刷されていたが、文章が読まれる前に目を通す時間はなかった(公立高・級不明)」という意見に代表されるように、ほぼ全員が出題された問題の中では最も難しかったと答えている。

全体的な難易に関しては、「英検準2級ぐらいで結構聞き取りやすかった(私立高・準2級)」「英検と違い2回放送があるので思ったより簡単だった(私立高・準2級)」と、英検のリスニングに比べると2回読みである分、易しかったとの意見が多かった。また「都立高校の入試のリスニングテストより、少し難しいくらいの問題でした(公立高・3級)」という指摘のほか、「今回のテストのレベルになるのかわるか、それが一番気になる(私立高・3級)」「今回は易しかったが、本番ではどうなるかわからないので不安だ(私立高・2級)」など、試行テストが全般に易しめであった分、本番のリスニング問題が難しくなることへの不安を訴える意見も多かった。

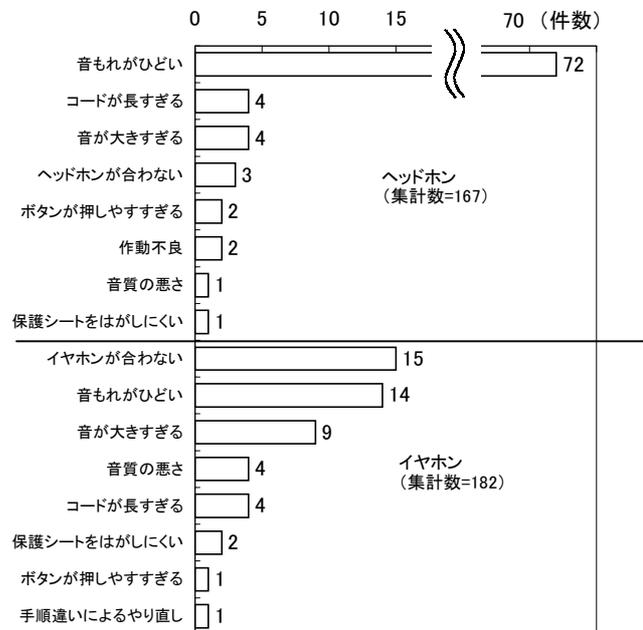
個別音源に関する受験者の声

○ 個別音源の操作に関しては、9割近くの受験生が「簡単～普通」であったと答えている。

使いにくかった、操作に失敗したという回答の中には、「青い保護シートと一緒に絶縁シートがはがれてしまった」ために、その段階で機器の交換になったケースや、「電源ボタン(スイッチ)を押すと赤い作動中ランプが点滅して音が出なかった」ため、機器を交換してもらったケースが報告されている。



また、個別音源に関するクレームも回答者の4割近く(38.3%)から報告されている。



音質については「良好」とする意見が多かったが、一方でヘッドホンの音もれに対する苦情が目立った。その内訳は、大きく次の4点に絞られる。

1. 一斉同時スタートでなかったため、無音時間(ポーズ)中に周囲の音声が聞こえてしまう。
2. 同じく一斉同時スタートでなかったため、周囲の受験生のページをめくる音が聞こえてしまい、大事なところを聞きそびれてしまう。
3. 音量を最小に設定しても大きすぎるので、ヘッドホンを耳から離して聞かざるを得なかった。
4. 周囲からの音もれに対抗するために、自分の音量も大きくせざるを得なかった。

一方、イヤホンならば問題がないというわけでもなく、イヤホンの形が耳に合わなかったため「耳が痛くなった」「結局、イヤホンを手で持ってテストを受けていた」などのケースが報告されている。また、「音質が悪い」と回答した比率もヘッドホンより高くなっている。

その他、「コードが長くて、腕に引っかかって機器を落としそうになった」「問題冊子、解答用紙、使用説明用紙、機材と並べると机がいっぱいで落ちてしまいそう」という苦情のほか、「ボタンが押しやすく、機器に手を触れただけでも作動してしまう」「間違っって『再生』ボタンを押したらおしまい」など、操作のしやすさを逆に問題視しているコメントもあった。

実施面に関する受験者の声

今回、質問項目としては準備していなかったが、備考の自由記述欄には、試験の段取りに関するクレームも多く報告された。「実際テストを受けている時間より、待ち時間や説明時間の方が長いのは苦痛でした」「機材を配付したり、回収するのに時間がかかるのが嫌でした。センター試験当日もあんなふうに時間がかかってしまうのかと不安です」など、待ち時間の長さへの苦情が49件(全回答者の13.7%)報告された。特に「個別音源に関わる操作順序に厳しい。かってにやったら不正行為らしい…」「操作方法は簡単で、使い方の説明も丁寧だった。でも、丁寧すぎて多分ほとんどの人がじれったく『もう、いちいちそんなこと言ってくれなくても自分でできるよー』と思っていたと思う」などに象徴されるように、ボタンを押すだけの単純な操作のために配付と説明の40分間をじっと待たされ続けたことが、現代の若者にとっては、かなりの苦痛であったようだ。